

京都市ウッド・チェンジアクション推進会議令和6年度第2回 議事概要

1 日時：令和6年8月28日(水)10時～11時45分

2 場所：文化と産業の交流拠点（仮称）

3 議事次第

(1) 話題提供

1) カーボンニュートラルと都市の木造・木質化
：三重大学 大学院生物資源学研究科 瀧上准教授

2) 京の木製品認証制度
：京都木材協同組合 谷口副理事長

(2) 令和6年度の取組について

4 議事概要

【(1) 話題提供 1) カーボンニュートラルと都市の木造・木質化について】

- ・ 木材は持続可能な資源であるが、現在伐期を迎えた人工林資源の毎年の成長量の4割程度しか使われておらず、もっと使っていくことが必要である。
- ・ 建築物の原材料調達～輸送～製品製造～建設までの温室効果ガス排出量を評価（ライフサイクルアセスメント／LCA）すると、非木造より木造の方が3～4割少ないことが言われている。かつては建築物での光熱費に由来する温室効果ガス排出量が多くを占めていたが、現在はZEBやZEHが実現可能になってきており、材料や建築構法の選定が、重要となっている。
- ・ 地元の木材を使うことは輸送距離が少なく済み、かなりCO₂排出を減らすことができる。カーボンニュートラルや地域経済の活性化に貢献するためには、都市の木造化をするにあたり、最初に地域で調達することを検討して、それが無理なら調達範囲を広げることが大切である。
- ・ 木材の炭素貯蔵効果は、非木造と比べて、3～4倍ぐらいの効果があると言われている。伐採後には植林して、森林が育つまで建物を長く大切に使うということが行われてはじめて、木材の炭素貯蔵効果が担保される。森林の炭素貯蔵量を維持しながら、都市にもストックを増やしていくイメージである。
- ・ 都市の炭素貯蔵効果に関する研究では、同じ面積で比較すると森林の炭素貯蔵量を100とすると、街の炭素貯蔵量は、全国平均で40ぐらいと試算をされている。東京とか大阪のような建物が密集した大都市には森林を上回るぐらいの炭素貯蔵効果があることが示されている。森林の循環利用が前提であるが、このウッド・チェンジで木造・木質化を進めていくことは、本当に街の中に森を作るんだといえるぐらいの効果がある。
- ・ 事業者が地域貢献や環境配慮への責任を負う中で、CO₂削減するために経済的な負担が重くのしかかる。普及品が出回り、経済的な余裕のある方にブランド

品を売っているような分野を参考に、マーケットニーズを開拓していくのがよいのではないかと思う。

- ・ 企業としてカーボンニュートラルに向けて動きは進めている一方で、建物の炭素貯蔵という観点は認識していなかった。定量的に評価できれば一般に普及させていけるのではないか。
- ・ 都市の炭素貯蓄に寄与する住宅ローンに対して金利優遇される制度などができるとよいのではないか。
- ・ 都市の炭素貯蔵としての木材の役割の話などを聞く機会があれば、一般の方も大変勉強になると思う。
- ・ 木は二酸化炭素を吸収し炭素として貯蔵する一方、分解されていく分もあり、複雑に循環していると思うので、もう少し詳しく勉強したい。

【(1) 話題提供 2) 京の木製品認証制度について】

- ・ 「京の木製品認証制度」は、木の需要が減り木材業界の事業者が減っていく中、木の魅力を伝えながら、需要を拡大していかないといけないという思いのもと発足した。木製品を通じて京都の木をブランディングするため、業界内外と連携しながら、木製品も評価基準を設けて、それに合う京都の木を使った魅力的な木製品を発掘し、海外の人にも認めてもらって、買っていただくというもの。また、組合の活動の認知度も上げていきたい。
- ・ 京都の山は比較的手入れされており、京北から北部の方の木も、結構良い木があると感じており、他府県の方も多く買いに来られている。目が詰まって、中身がしっかりしていて、見た目もきれいである。
- ・ 長期的なビジョンを持って、木の普及を目指して取り組んでいく必要があり、若手と議論を重ねた中で、「京都の木の魅力」と「インバウンド」、「ブランド」をきっかけにして、次に展開につなげられるのではないかと考えている。
- ・ この取組の立ち上げで起こった一番大きな変化は、若いメンバーが京都の木の扱いに対して、考え直し、見方を変えるということや、自分たちの仕事は自分たちで作っていかないといけない、といった動きが出てきたことである。
- ・ インバウンド需要や海外の日本への注目の高まりに乗じて、「京の木製品認証制度」が海外向けに発信できるとよい。伝統的工芸品産業の振興に関する法律による伝統マークでは、英語の資料も用意されており、シールのあるものから売られているようである。
- ・ 京都のお土産物も昔と変わり、かなり良いブランド品を購入する層も増えている。わざわざ京都に来て買うぐらいの木製品を作ることができれば、木材業界だけの話だけではなくて、観光資源や京都ブランドとして、世界に発信していけるのではないか。
- ・ 将来的に、京都らしさを使い、京都産木材の建材としての輸出や、北山丸太を

使った茶室などもセットで京都が輸出できるとよい。

- ・ 「京の木製品認証制度」では、木材業界として京都らしさを活かしたブランド力のある木製品を世に出していきたいと考えている。京都木材会館の1階には展示スペースを設けるほか、年明けには東京での展示を考えている。
- ・ 木の回廊が注目されている大阪・関西万博は、日本の木をアピールする絶好の機会と考える。オール京都で木をアピールし、世界に発信してはどうか。

【(2) 令和6年度の取組について】

- ・ 昨年に引き続き、設計者、工務店向けに、住宅の横架材に使われるベイマツを京都の杉に置き換えた際の構造や価格などのシミュレーションを行っており、年明けにその報告会を予定している。
- ・ 京都府建築工業協同組合では、若手に技術を継承していくため、「葎(よし)塾」という勉強会を行っている。10月末の市役所前広場イベントでは、葎塾が制作した子ども神輿を展示し、その良さに触れていただけたらと思っている。
- ・ 10月12日には北山丸太を都へ運んだ京道と言われる鷹峯までのルートを歩くツアーを行う予定であり、広く北山丸太を認識していただき、京都の木の文化の歴史を感じていただきたい。

【全体意見】

- ・ ベネチア、フィレンツェなどと比較しても京都市は、インバウンドの多い歴史都市になってきている。近年、気候変動も国際的な話題になろうとしている。観光や温暖化など様々な転換期にある中、ウッド・チェンジで何をどのような方向に変えていくか議論ができればよい。
- ・ 京都市の観光需要が高まる中、京都らしい旅館、町家など木造の人気の強い。ラグジュアリーホテルでも、木質空間を意識した仕様にするなど、観光がまちの建築に対しても相当影響している。
- ・ 万博の機会に京都まで足を延ばしてもらえれば、木の建物もあるし、木の家具や木製品がたくさんあるという形で、上手く万博と関連していくのも効果的かと思うので、ぜひ検討されたい。
- ・ 万博終了後の木材の再利用についても議論が生じている。これは炭素貯蔵量をどれだけ増やしたり、リサイクルなどができるかということを示す非常に貴重な機会である。京都では、建築や家具、木製品で炭素を貯蔵させていく仕組みのモデルを示すことができるチャンスではないか。
- ・ 10月末の市役所前広場イベントのワークショップなどの体験の機会に加え、今日のような座学の勉強の部分も取り入れ、小さな子どもから木育のような体験ができる機会をつくれるとよい。
- ・ ウッド・チェンジアクション推進会議は、全体会議で話題提供して意見をいただいて、課題は企画部会で解決していくスタイルになっているため、ぜひ各部

会に御参加いただきたい。一緒に議論しながら答えを見つけ、全体会議で外に
発信する流れにできるとよい。

以上